

vol.  
615

**SOUL**



公益社団法人郡山青年会議所 2024年度スローガン

**Do one's best!**

～心を尽くして行動しよう！  
私たちの想いが新世紀 郡山の扉を開く～



公益社団法人郡山青年会議所

二〇二四年度卒業式・送別会

十二月二十一日（土）、郡山ビューホテル四階パラシオにて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度卒業式・送別会」が開催されました。

■卒業式

卒業式では織田理事長の挨拶から始まり、八名の卒業生へ向けてこれまでのJC運動・活動への思いの言葉と、今後のご活躍に対するエールを送られました。続いて卒業生に卒業証書が授与され、現役会員と卒業生との記念品の交換がありました。来賓である有賀 隆宏 O B 会副会長からご祝辞をいただき、現役会員から卒業生への送辞では、卒業生が生まれた昭和五十九年に連載が開始された「ドラゴンボール」を模した寸劇から始まり、新入会員を代表して岩崎 壮宏 君が送辞を読み上げました。

答辞では、卒業生一人ひとりが新入会員時代のお話や担当委員会として取り組んだ事業、その際にお世話になった先輩や仲間へ感謝の言葉があり、その経験で得た気づきと学びを現役会員へのメッセージとして送られました。

■送別会

続く送別会では、新入会員によるオープニングアトラクション、メインアトラクションが行われました。連日連夜卒業生への想いを込めて練習を重ねたアトラクションは大成功し、会場は拍手の渦に包まれました。その後各卒業生にゆかりのある先輩方や他の青年会議所のメンバー、ご家族からの労いのビデオメッセージが上映されました。

最後に卒業生代表として芝田 銀平 君よりご挨拶をいただき、盛況のまま閉会となりました。本年ご卒業されました芝田 銀平 君、金山 慶一 君、鈴木 章弘 君、伊藤 裕之 君、佐藤 広幸 君、飯沼 英俊 君、土屋 繁太郎 君、渡邊 千代子 君、改めてご卒業おめでとうございます。



## 2024年度 卒業生あいさつ

### 感謝



芝田 銀平

私は二〇一三年に郡山青年会議所に入会し十二年間活動させていただきました。入会当初は慣れないJC活動に右往左往するばかりで、志高く目標をもって活動する多くのメンバーを横目に見ながら思うように活動ができな時期も多くありました。そのたびに先輩方や同期のメンバーが私に手を差し伸べ、引き上げていただいたおかげで何とか活動に戻ることができた十二年間の日々でした。

十二年間の活動の中で理事長や東北地区協議会の副会長など、多くの貴重な機会をいただき大きな気づきと学び、そして理事長同士、役員同士の貴重なつながりを得ることができました。今後は青年会議所のOBの名に恥じぬよう、地域をより良くする活動を続けていく所存でございます。

現役メンバーの皆様は今お伝えしたいことは、青年会議所の機会は貴重であるということを決して忘れないで欲しいということだと思います。青年会議所の時間は無限ではありません。今仕事に家庭に忙しい日々を過ごしている現役メンバーの皆様には、どうか青年会議所の時間を作っていただき、四〇歳までの貴重な時間を自らの成長のために使って欲しいと思います。

最後にはなりますが今日まで私の青年会議所運動・活動を支えていただいた妻をはじめとする家族や会社の皆様、同期をはじめとする多くの先輩や現役メンバーの皆様、心からの感謝を申し上げて私からの卒業のご挨拶とさせていただきます。十二年間ありがとうございました。

### 感謝してお待ちしております



金山 慶一

私が郡山青年会議所に入会したのは二〇一三年で十二年間活動させていただきました。当時の総務委員会のスタッフの皆様よりご指導をいただき、少しずつではありますが、このまちのために何ができるかを考えるようになりました。

同期入会の仲間たちが、理事メンバーや役職を受け活躍している姿を見ていたこともあり、いずれは私もそのような立場で活躍できたらと考えておりました。そのような中で二〇一八年に青少年育成委員長のお話しをいただき、初理事ということもあり、不安もございましたが先輩方と委員会メンバーの皆様が助けられ、JCの素晴らしさや友情を実感し、充実した一年間を過ごすことができました。その後は、常任理事を経験させていただきました。中でも郡山青年会議所と福島ブロック協議会の専務として活動させていただいたこともあり、組織運営の仕方など生業に活かせる部分を多く学びました。

様々な立場の方と同じ目標に向かい、本気で議論し切磋琢磨することで自分自身が成長し、多くの時間を家族のように過ごすことで芽生える友情はとても素晴らしいです。JCの醍醐味だと思います。今後もこの素晴らしいJCを一人でも多くの方に伝えていただき、さらに郡山青年会議所が発展していくことを祈念しております。

最後になりますが、今まで大変お世話になりました先輩方や現役メンバーの皆様から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。そしてさようなら。

### すべてに感謝



鈴木 章弘

私は二〇一八年に郡山青年会議所に入会し七年間活動をさせていただきました。入会するまで青年会議所がどのような活動をしているのかも分からず、団体名すら聞いたことがありませんでした。入会当初は正直不安しかありませんでしたが、少しずつ組織の事や青年会議所の行っている運動・活動の本質を理解し、各種事業での設営や会議をする意味そしてメンバー、同期に恵まれ楽しい一年間を過ごすことができました。

私の考えるJCの魅力は、職種や経歴、年齢など全く関係のないメンバーと出会い、同じ目的に向かって活動し、その中で得た学びを自分のスキルアップにつなげることだと思います。中盤は新型コロナウイルス感染症の影響で中々出席が叶わず、頑張っている当時のメンバーには申し訳ない気持ちでいっぱいでした。徐々に落ち着いてきた二〇二三年に初理事を経験させていただきました。さらに運動・活動への理解を深めることができました。卒業する今だからこそ、あの時こうしていればと後悔の念がぬぐえません。

最後となりますが、七年間という期間を支えてくださり、一緒に運動・活動をしていただいた皆様は心より感謝申し上げます。これからは郡山青年会議所が得た経験を活かし、地域、仕事に向き合い全力で挑戦していくことをお誓いし、卒業の挨拶とさせていただきます。

七年間本当にありがとうございました。

### 感謝しかありません



伊藤 裕之

二〇二一年に郡山青年会議所に入会し四年間活動させていただきました。

入会一年目の総務委員会、入会するまでは同業者との交流がほとんどだったこともあり、年齢も異なり同業以外の人達とどのように接していこうか悩みながらのスタートでした。事業の際にはどう行動していいのかわからないなか、総務スタッフの方々にご指導いただきながら参加を重ねるうちに、青年会議所という組織や運動・活動の中心を理解していくことができました。同期とともに絆を深め、学びが多かった一年間でした。

二年目以降は広報委員として三年間活動させていただきました。広報という立場で様々な事業に参加させていただきました。「久米賞・百合子賞」を担当した際は、中学生の想いや考えなどを表現した作品を読み、自分が今までに感じたことが無かった感情が湧き、大変素晴らしい経験をさせていただきました。

この四年間を振り返るとあつという間、入会しなければ出会うことはなかったかも知れないLOMメンバー、OBの先輩方など多くの方と出会い、交流させていただきご縁が生まれました。今後の仕事に繋がるかけがえのない経験ができたと思います。

四年間を通して私の活動自体は職業柄、なかなか参加することが困難でしたが、いつも助けていただいたばかりで、毎年一緒になった委員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。今後OBになりましたが培ってきた経験を現役会員の皆様にお伝えしたいと思いいれからもより一層精進して参りたいと思います。

本当に感謝しかありません。四年間ありがとうございました。

## 感謝と御礼



佐藤 広幸

二〇二一年に私は郡山青年会議所に入会いたしました。当時はコロナ禍真ただ中であり、すべての行動に制限がかけられ、思うような活動ができない状況でした。そこに追い打ちのようには福島県沖地震が二月に発生し、その対応に追われ、ますます委員会や事業に顔を出す機会が少なくなっていました。それでも当時の総務委員会スッタッフの皆様が私を暖かく迎えてくださり、徐々に参加の機会も増えていきました。そこで気づいたことは私が行かないことにより、他の同期メンバーが代わりに時間を割いて役割を担ってくれていたことでした。今思うとそこから時間をつくってでも参加しようという気持ちになったと思います。

四年間という決して長くはない期間での活動でしたが、まちづくり委員会委員、総務委員会副委員長、広報委員会委員長という様々な視点と立場でLOMを見ることでできました。各々責任のある役職に就かせていただき、自分自身の成長に大きくつながったと思います。また、ブロック協議会アカデミー委員会に出向させていただき、素晴らしい出会いがあったことも私の大きな財産となりました。

JC運動・活動を通じて多くの人の大切な出会いがあり、とても充実したJCライフを過ごさせてくださいました。これもひとえに機会を提供していただいた皆様のおかげだと思えます。最後になりますが私を支えてくださった諸先輩方、LOMの皆様にご心より感謝申し上げます。四年間本当にありがとうございました。

## 感謝



飯沼 英俊

私は二〇二二年に郡山青年会議所に入会しました。三年間という期間でしたが、実際に運動・活動に関わった回数としてはそこまで多くありませんでした。

なかなか参加できず本当にこのまま卒業を迎えてよいのか、同期や同じ委員会の方々に迷惑をかけて居続けていたのか、そのようなことを自問自答していました。そのようなことを自問自答して卒業を迎えることができるのは、いつもことあるごとに声をかけてくれる同期や参加したときに話しかけてくれる委員会メンバーや皆さんがいたからです。皆さんの温かさに触れ、どれだけ救われたかわかりません。私はここにいて良いんだと思うことができ感謝の気持ちでいっぱいです。

以前、「郡山の経済界を牽引しているのはJCなんだよ。機会があれば入会した方がよいよ」と取引先のお客様に教えていただいたことがありました。少しだけですが、運動・活動に参加して郡山JCは歴史と伝統を大切にしながら、プライドをもって事業へ取り組んでいると感じました。また何としても事業をやりきるという気迫を感じ、多くのことを学ばせていただきました。入会させていただき本当にありがとうございました。

JCは卒業しますが、これからも同じ郡山に住む一人として、皆さんと一緒に郡山市のため、福島県のために運動・活動ができることを願っています。そして私自身も学んだことを活かして、新たな挑戦をしてみたいです。三年間お世話になりました。ありがとうございました。

## 三年間ありがとうございました



土屋 繁太郎

私は二〇二二年に入会し、三年間という短いJCライフでした。そんな私を知ることでできたJCの世界は、ほんの一部に過ぎないことを私自身もよく理解しています。多くの方々のお力添えにより様々な機会に恵まれた私は、限られた時間の中でも、そこで出会った仲間たちの姿や言葉からJCの普遍的な魅力を感じ取ることは容易でした。初めて入会のお声かけをいただいた時からしばらくJCを避けていた私が、今やJCの魅力を他者に熱弁して拡大しているのですから自分でも驚きます。私のJCライフは後悔や反省が多かったように思います。しかし、それは悪いばかりではなく成長の機会に恵まれたことでもあり、苦しい場面をいつもそばで力を貸してくれた仲間たちと乗り越えることで毎年、自身の心境の変化を自覚していきました。私にとってJCはMissionのおり人づくりであり、社会により良い変化をもたらす青年が増えていくことです。

正直、もう少し続けたかったという気持ちがありますが、諸先輩方がそうであるように、きつと卒業してからの第二章です。三年間、私と活動を共にしてくださった多くのメンバーの皆様、そして私がJC活動に傾倒することを許容し、支えてくれた一番は妻、そして家族、会社から感謝を申しあげ、少し寂しいですが卒業の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

## 感謝



渡邊 千代子

私は郡山青年会議所へ二〇二二年に入会し、三年間と短い期間ながら色々な活動に参加させていただきました。入会当時は新卒から勤めてきた大阪を離れて二人目の出産、育児休暇明けすぐということもあり、知り合いもほとんど居ない地元でやっていけるか不安と共に入会しました。そのような時、素晴らしい同期や総務委員会が導いてくださった先輩方、LOMメンバーの皆様と出逢えたことが、入会して最初に与えられた贈り物だと思っています。

二年目・三年目には青少年育成委員として活動に参加させていただきました。委員として活動した一年目は他の委員に助けられつつ委員長や副委員長に示される方に向かってがむしゃらに突っ走った記憶は少なく、導いてくださった先輩方の懐の深さに改めて敬服しかありません。

そんな中、声を掛けていただいた卒業年度の副委員長職、及び腰の私に「声を掛けてもらったことに感謝して精一杯やり切れ！JCでしか出来ない経験を抱えて胸を張って卒業しろ！」と先輩に飛ばされた檄で決意し、自分なりの全力で向き合った一年となりました。委員長を始めとした委員メンバーに恵まれたうえ、メンバーの皆様を支えられ助けられてなんとか走り切ることができました。

三年間仲間として受け入れてくださった皆様に、素晴らしい経験を胸に卒業できる感謝を込め、今後も卒業生として恥じない精進を誓って卒業のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

## 奈良J.Cとの交流会及び うねめまつり踊り流し



八月二日(金)〜四日(日)にかけて「奈良J.Cとの交流会及びうねめまつり踊り流し参加」が開催されました。

今年は(一社)奈良青年会議所様との姉妹

■一日目・八月二日(金)  
ミスうねめパレードに織田理事長が葛城王の衣装をまとい参加されました。その後ステージにてミスうねめ交代式が行われ、葛城王の紹介とともに織田理事長が挨拶されました。うねめ踊り流しではミスうねめとともに列の先頭に立たれ、皆の声援に応えながら歩かれました。

■二日目・八月三日(土)

(一社)奈良青年会議所の皆様を郡山駅にてお出迎えし、郡山ビューホテルアネックスにて記念式典「友情と絆の姉妹J.C締結五十周年」を尽くして、共に未来へ〜が開催されました。織田理事長と(一社)奈良青年会議所理事長胎中謙吾君、(公社)郡山青年会議所OB会会長池田達哉様に挨拶いただき、未来永劫変わらぬ友情を誓い合いました。

姉妹J.C締結に至った経緯や、各周年に行われた当時の事業内容など、スライドショーを交えた説明があり、締結時から現在にわたる絆について再認識することができました。記念品として「未来へ向け、これからも同じ時を刻んでまいりましょう」という想いを込めて、姉妹締結五十周年記念の刻印が入った電波置き

時計を交換し、最後に若い我らを歌い閉会となりました。

その後、バスに乗り込み(株)アサヒ研創様のご厚意により鯉のカスタネット絵付け体験を皆で行いました。各々好きなようにデザインし、個性あふれるカスタネットが出来上がりました。外には縁日が用意されており、新入会員によるおもてなしで奈良J.Cの皆様喜んでいただきました。

郡山駅に戻り、胎中理事長には葛城王の衣装をまといいただき、ミスうねめパレードに参加していただきました。その後皆と合流し、うねめまつり踊り流しが始まりました。皆暑さも忘れたように笑顔で、踊り終わった時にはメンバー同士の親睦が一層深まっています。

■三日目・八月四日(日)

郡山駅にてお見送りとなり、昨日の思い出話をメンバー同士でするなど、短い時間でしたがメンバー同士の友情は確実に深まったと思います。九月に行われる奈良の「采女祭」にて再びお会いすることをお約束し、散会となりました。



## 明日からやりたい 発見隊になろう!!

八月十一日(日)、AGCエレクトロニクス郡山カルチャーパークにて「明日からやりたい発見隊になろう!!」が開催されました。



子どもたちに多様なコミュニケーションを知ってもらい、実体験を通して成長し自らの才能を開花させる機会を提供するために、青少年育成委員会のメイン事業として実施いたしました。

当日は三十箇所の体験ブースが設置され、子どもたちは興味津々で各ブースをまわっていました。

六箇所以上体験した子どもたちには発見隊の証として、発見隊ノートが配られ、ゴール地点ではやりたいことシールを作成してもらい、トゥモロートラックと題したトラックの壁に貼ってもらいました。

メインステージでは各種ブースの紹介が行われ、それぞれ趣向を凝らしたパフォーマンスで観客を沸かせていました。

またイベントとして「子どもたちの夢発表会」も開催され、明日からやりたい発見隊〜を開催し、子どもたちのやりたいことをプレゼンテーションしてもらいました。



皆自分自身の夢や目標、やりたいことを観客席に向けて堂々と伝えていました。

当日は雨や風はありませんでしたが予定通り開催することができました。出展ブース様から体験した子どもたちから習い事をやってみたいという話があったとの報告もいただいております。子どもたちが明日からやりたいことを見つけてくれるきっかけになることができたと幸いです。

## 八月例会

八月二十二日(木)、「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度八月例会」が開催されました。



本来であれば郡山市郡山公会堂にて実施する予定でしたが、諸事情により施設の利用が制限されたため、急遽ZOOMを併用したハイブリッド開催となりました。

理事長挨拶では「振り返りの重要性」についてのお話がありました。

「次年度がスタートしていくなかで、本年度のJ.C運動から得られた自身の成長を測るためにも、振り返ることが大事

である」とのお言葉がありました。その後に行われた会務報告のなかでは、東北青年フォーラムやまちづくり委員会とのメイン事業などのご依頼があり、後半戦のスタートに向けて、各委員会がメンバー一丸となって取り組む心意が見られた例会となりました。



## 東北青年フォーラム in青森

九月六日(金)～八日(日)にかけて「東北青年フォーラムin青森」が開催されました。

東北地区協議会最大の運動発信の場であり、「みちのく魂」世界に先駆ける東北の実現」のスローガンのもと、(公社)青森青年会議所の主管で行われました。

### ■一日目・九月六日(金)

初日はウェルカムナイトが開催され東北地区各LOMのメンバーと懇親を深めるとともに、東北地区協議会に出向しているメンバーとフォーラム開催へ向けて気持ちを高め合いました。

### ■二日目・九月七日(土)

二日目は、迫力あるねぶた囃子がオープニングを飾り、セレモニーでは芝田会務担当副会長がJCIクリード唱和を務めました。その後メインフォーラムでは「活動成果発表」や青森県知事宮下宗一郎氏による「基調講演」、パネリス



トに青森県出身タレントの玉林氏を招き、宮下知事と菅原東北地区協議会会長との「パネルディスカッション」が行われました。日本経済の突破口として東北の魅力を発信し、地域の結束を強める大変有意義な機会となりました。  
[AWARD TOHOKU 2024]では各種褒賞が行われ、JCI GO登録活動において福島ブロック協議会が最優秀賞となり、柳沼ブロック会長が表彰を受けました。

また、事業褒賞部門では(一社)もとみや青年会議所がグランプリを受賞し、会場にいた福島県のLOMメンバー全員で喜びを分かち合いました。

### ■三日目・九月八日(日)

「ゼミ閉校式・褒賞発表」が行われた後の「クロージングセレモニー」にて、東北地区協議会二〇二五年度会長候補者が発表され、会長候補者である柳沼勝恵君の名前が読み上げられました。柳沼会長候補者は時代に合わせた柔軟な組織運営の構築と変えてはならない理念や先人の想いについて述べられ、次年度へ向けての決意を語られました。その後、次年度開催地の主管である(一社)秋田青年会議所による「東北青年フォーラムin秋田」の開催地PRや大会の鍵の伝達式が行われました。



## 第六十三回 「久米賞・百合子賞」 読み合わせ会



九月九日(月)、公益社団法人郡山青年会議所事務局にて第六十三回「久米賞・百合子賞」読み合わせ会が開催されました。講師として本青年会議所のOBでありご自身も執筆活動をされている滝田務雄先輩と、昨年まで詩部門の審査を担当していた高橋静恵様をお呼びし、小説と詩の採点方法や審査についてのポイントなどをご教授していただきました。

昨年の第六十二回「久米賞・百合子賞」作品集を用いながら模擬審査を実施し、皆真剣になって取り組んでいました。

滝田先輩から「中学三年生という受験勉強で大変な時期に応募してくれた生徒のために、作品の内容を真摯に受け止めてきちんとした評価をして欲しい」とのお言葉もあり、ぜひ今回の読み合わせ会での学びを生かしていただき、審査に臨んでいただければと思います。



## 奈良公式訪問

九月十七日(火)、十八日(水)の二日間で「奈良公式訪問」をさせていただきました。

### ■一日目・九月十七日(火)

初日は近鉄奈良駅にて(一社)奈良青年会議所様による心温まるお出迎えから始まりました。



バスにて春日大社に移動し「感謝・共生の館」にて昼食会が行われ、胎中理事長と織田理事長の挨拶がありました。織田理事長からは「奈良の地に初めて来たメンバーにはぜひ奈良の地を堪能して、大いにメンバー間で親睦を深めてほしい」とのお言葉がありました。

昼食後に奈良青年会議所のOBであり春日大社の権禰宜をお務めになっている岡様より、玉串奉奠の作法を教えてくださいました。続いて春日大社を案内していただき御本殿にて参拝を行いました。

その後、奈良采女祭の始まりとなる花扇奉納行列に参加し、天平衣装に替えたメンバーは郡山市のミスうねめとともにJR奈良駅広場から猿沢池ほとりの采女神社まで歩きました。国内のみならず海外旅行者も数多く見られ、祭りの注目度が伺えました。

中秋の名月に照らされる中、猿沢池にてうたがたりや箏弦船の儀、花扇奉納行事が終始厳かな雰囲気で行われ、郡山うねめ祭りとの雰囲気の違いを感じることができました。

夜には懇親会が開催され、奈良JCの新入会員渾身のエクスカッションに会場が大いに沸きました。

### ■二日目・九月十八日(水)

二日目は朝早くにも関わらず多くの奈良JCメンバーに見送られ、来年の再会を誓い合いながら奈良市を後にしました。今年には姉妹JC締結五十周年の年でもあり、先輩たちの築き上げてきた絆の深さを感じることができた訪問となりました。



# 九月例会・定時総会

九月二十日(金)、郡山ビューホテルアネックスにて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度九月例会・定時総会」が開催されました。

## ■九月例会

理事長挨拶では「残り三ヶ月となり本年度が交錯する非常に労力がかかる時期である。まず大変なのはスケジューリング管理であり、自分一人で会社との兼ね合いも含めてやっていかなければならない。皆様には誰のため、何のためかをよく考えながらスケジュール管理を行い、自身の成長につなげてもらいたい」と、スケジュール管理の重要性についてお話がありました。



その後に行われた会務報告と出向者報告では、まちづくり委員会のメイン事業である「楽都アニソネット郡山」のご依頼や、会員拡大の進捗状況について各委員会から報告がありました。

事業をやり遂げて感じたことや引き継いでほしいことなど、次年度を見据えた発言の多い例会となりました。

## ■九月定時総会

OB会会長 池田 達哉 先輩よりご挨拶いただき「様々な役職に就き委員会活動や遠征事業を通して得られた人脈や、学んだことを生かす機会が訪れた際に、JCに入会したことに対して感謝するようなJCライフをお言葉を送ってほしい」とのお言葉をいただきました。



議長に片田光君、副議長に高橋章太君が選

出され議事に移り、二〇二四年度の補正予算、二〇二五年度の役員と監事選任の議案を諮り、全員賛成にて可決承認されました。

続いて二〇二五年度の役員予定者が一人ずつ紹介され、次年度理事長予定者の佐久間 悠治 君と固い握手を交わし、壇上に整列しました。佐久間次年度理事長予定者の二〇二五年度の決意が述べられ、次年度がスタートする第一歩となりました。



## 楽都アニソネット郡山

九月二十九日(日)、開成山公園野外音楽堂とフロンティア広場にて「楽都アニソネット郡山」が開催されました。

本事業は郡山市内で活動をしている音楽団体や学生団体、市民が主役となって音楽を発信し、市民の皆様が郡山市で開催されている音楽イベントへ自発的に参加するきっかけとしていただきたいと思います。う想いで開催されました。

開成山公園野外音楽堂では、MCをナシモン様にお務めいただき、成瀬瑛美様とがとくとくバンドによる演奏が



らスタートし、会場が大いに沸きあがりました。その後も合唱やアカペラ、サックスなどさまざまな方法でアニメソングを演奏・歌唱していただき、来場者の皆様に興味関心をもっていただくことができました。

フロンティア広場では手作り楽器工作ブースや楽器体験ブースが設けられ、手作りの楽器製作や自分で音を奏でる楽しさを体感していただき、音楽に対して親しみを感じていただきました。

また、久保田雅人様による親子工作教室を開催し、子どもたちに工作の楽しさを面白おかしく教えていただきました。

親子工作教室に参加した子どもたちには作成したパークッションを使ってメインステージに上がっていただき、他の音楽団体と一緒に子どもたちの即興演奏会と題して自由に音を奏でていただきました。



## 第七十三回全国大会 福岡大会

十月四日(金)～六日(日)にかけて「第七十三回全国大会福岡大会」が福岡の地にて開催されました。本大会は開催テーマに「Smile for tomorrow」を掲げ、それぞれの地域が持つ魅力を活かし、「共生の精神」によって新たな価値を創造することを宣言し開催されました。

■一日目：十月四日(金)

初日は開会式後に行われた総会にて、二〇二五年度東北地区協議会会長ならびに日本青年会議所常任理事として柳沼勝恵君が選任されました。一般のメンバーは会場に入ることはできませんでしたが、織田理事長をはじめとする全国各地の会員会議所理事長が参加され、満場一致にて可決承認されました。郡山青年会議所として胸が熱くなる総会となりました。

## ■二日目：十月五日(土)

二日目は、主管青年会議所記念フオーラムとして「十年後随ちる企業・アガる企業」、九州地区協議会フオーラムとして「拡張する世界」～ひと、誰かになれる、社会フオーラムとして「896の地域が消える前に未来を生み出すデジタル人材の可能性」～、経済フオーラムとして「JAPAN as Only One」～地域のために私たちができること～をテーマに様々なフオーラムが開催されました。著名な方々がパネリストや講師として招かれ、普段聞くことができない刺激のあるとても学びの多い一日となりました。



卒業式ではスペシャルゲストによるパフォーマンスが披露され、会場が大いに沸きました。卒業生を代表して(公社)日本青年会議所顧問の菅野譲君から来年以降の現役メンバーに向けて熱いお言葉をいただきました。最後は会場全体で大合唱するなど、感動とエンターテイメントが融合した素晴らしい設えとなりました。



■三日目：十月六日(日)

最終日は二〇二五年度スタートアップセッションが行われ、佐久間次年度理事長予定者と武田次年度専務理事予定者が参加されました。また、次年度協議会役員予定者セミナーが行われ、本格的に次年度がスタートしたことが伺えました。



### 第六十三回 「久米賞・百合子賞」 第二回実行委員会

十月七日(月)に郡山市役所にて第六十三回「久米賞・百合子賞」第二回実行委員会が開催されました。

織田実行委員長から、「久米賞・百合子賞」は文化団体連絡協議会の中でも話題となっており、あらためて歴史の重みと、さらにより良いものにしていかねばならないという責任を感じている。ぜひ子供たちの未来のため、郡山市の文化芸術のためにもさらなる「久米賞・百合子賞」の発展にご協力いただきたい」とのお話がありました。

実行委員会では応募状況や第六十三回「久米賞・百合子賞」授賞式、今後のスケジュール等を打ち合わせし、無事に承認いただくことができました。



### 第六十三回 「久米賞・百合子賞」 最終審査会



十月十九日(土)、郡山ビューホテルにて第六十三回「久米賞・百合子賞」最終審査会が開催されました。

織田実行委員長から、「久米賞・百合子賞」は文化団体連絡協議会の中でも非常に長い歴史を持つている事業の一つであるという。本年度の「久米賞・百合子賞」をさらによりよいものとし、次代につなげていきたい」とのお話がありました。

続いて溝井審査員長から、「大変歴史のある事業であり、中学三年生が受験に取り組みながら作品づくりに向かうという気概を高く評価している。学生生活の中から一つの文学作品を創造する価値の尊さを周りの私たちが見ていかないと、彼らの感性を損なってしまうことになる。審査員の先生方と一緒に彼らの努力に応えられるよう頑張る作品を見ていきたい」とのお話がありました。



### 十月例会



十月二十一日(月)、中央公民館にて「公益社団法人郡山青年会議所二〇二四年度十月例会」が開催されました。

理事長挨拶では「自社の企業理念を深掘りする機会があり、キーワードの一つひとつを紐解いていくと最終的には、ウェルビーイング(Well-being)な社会をつくっていくことにつながると感じた。次年度の委員会も始まってきている。スローガンや事業方針の言葉の意味を深掘りし、よりよい委員会活動につなげてほしい」とのお話がありました。

その後に行われた会務報告と出向者報告では、持続可能な組織開発委員会の「社会課題解決型ハッカソンin郡山」や総務委員会と広報委員会合同の「十一月例会並びに第六十三回「久米賞・百合子賞」授賞式」のご依頼がありました。

また、佐久間次年度理事長予定者から二〇二五年度公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会会長予定者の柳沼勝恵君を励ます会のご依頼があり、次年度の始まりが感じられる例会となりました。

### 十一月例会並びに第六十三回 「久米賞・百合子賞」 授賞式



十一月二十三日(土)、郡山市労働福祉会館にて「二〇二四年度十一月例会並びに第六十三回「久米賞・百合子賞」授賞式」が開催されました。

■十一月例会  
理事長挨拶では「本年の例会も残すところ一回となった。本日の素晴らしいセレモニーを見て感無量である。セレモニーというのは原点であり、セレモニーをしっかりとやるLOMはまとまりがある以上に、鉄の結束を感じるものである。最後の例会も多くの会員が集まっていた。最後有終の美を飾ってほしい」とのお話がありました。

■第六十三回「久米賞・百合子賞」授賞式  
例会後には詩人の和合亮様をお招きし「郡山から世界へ」郡山の若者たちへ」のテーマのもと、郡山で過ごされた少年時代や詩人として歩まれてこられた経験をお話いただきました。

ユーモアを交えた講演で会場が笑いに包まれる一方で、東日本大震災を題材にした詩の真に迫った朗読は、震災時の凄惨



な状況が目には浮かぶほどの衝撃があり、涙を流される方もいらっしゃいました。

講演会の終了後には審査員と受賞者による茶話会が行われ、作品に込められた想いや工夫した点などを話し合われていました。

授賞式ではご来賓としてお招きした郡山市教育委員会教育長の 小野 義明様、郡山市中学校校長会会長の 小山 健幸様、郡山市PTA連合会会長の 橋本 裕様よりご祝辞をいただき、受賞者に対して作品を書き上げるために積み上げてきた努力や悩みを労いながらお祝いの言葉を述べられました。

続いて受賞者の表彰が行われ、一人ひとりに賞状が手渡され、正賞受賞者と学枝賞には盾が贈られました。

審査員長の 溝井 勇様の講評の後に、正賞受賞者の 鷲谷 羽南さんからスピーチをいただき、作品をつくるにあたっての背景や受賞に対する感想などを述べていただきました。

受賞された学生さんと保護者の皆様がとても嬉しそうにされていた姿がとても印象的でした。受賞された皆様誠におめでとうございます。



### 福島ブロック協議会 二〇二四年度アカデミー委員会 閉校式・事業報告会・卒業式

十二月一日(日)、郡山ビューホテルアネックスにて(公社)日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会 二〇二四年度アカデミー委員会閉校式・事業報告会・卒業式」が開催されました。

#### ■アカデミー委員会閉校式

初めに行われたアカデミー閉校式では、塾生一人ひとりが自身のスローガンを振り返り、委員会活動を終えての気づきと学び、今後のJC運動に対する決意表明を述べました。

その後褒賞へと移り、郡山JCから出向している黒田委員は塾長賞、橋本委員は最優秀塾賞を受賞しました。また二人とも皆勤賞をとり、委員会活動に真摯に取り組んでいました。二人とも受賞おめでとうございます。



■事業報告会  
事業報告会では、本年度に福島ブロック協議会が行ってきた事業の報告がありました。担当の委員長からは苦労されたことやそれ以上に大きな喜びと達成感を得られたことなどが述べられました。次年度へと引き継ぐ大切な場となりました。

#### ■卒業式

卒業生入場では、卒業生一人ひとりに会場全体から祝福の声が上がりました。郡山JCの卒業生もその声援に応えながらランウェイを歩かれました。送辞ならびに答辞が行われ、感謝の言葉と将来への決意をそれぞれ述べられました。これまでのJCライフを振り返るとても感動的な式典となりました。



Instagram QRコード

フェイスブック QRコード

エックス QRコード

SNSによる情報発信も行っています。

### アンケートのお願い

本誌や当団体へのご意見やご感想をお寄せください。

郡山青年会議所では本誌や当団体に対するご意見やご感想を募集しています。記載のQRコードから回答いただくか、FAXやハガキに左記項目を明記してお送りください。

- 性別 ●年齢 ●関係者か否か
- 興味・共感を持った記事または事業
- 本誌や当団体へのご意見・ご感想
- 当団体にやってほしい事業

〈宛先〉  
公益社団法人郡山青年会議所  
広報委員会宛

〒963-8004 福島県郡山市中町5-17 中町スペース3F  
FAX: 024-9332-2857

※ご記入いただいた個人情報誌面を充実させることや事業へ役立てること以外のご目的で用いたしません。



アンケート QRコード

### 編集後記

広報誌「SOU」を一年間ご愛読いただきましてありがとうございます。この広報誌を通じて郡山青年会議所の事業やメンバーを紹介させていただきましたが、どう感じられたでしょうか。誌面では残念ながら掲載しきれなかった運動・活動もございます。ぜひこの広報誌を手にとっていただいたあなた様に、郡山の未来のために頑張っている同志の姿に興味を持っていただけましたら幸いです。今後も何卒ご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。

広報委員会 委員長 佐藤 広幸